



清水と生きる。清水を活かす。

ほり つとむ

市
議
会
議
員**ご挨拶 【公約実現に向けて】 —市議会本会議 総括質問に臨む—**

▶現在、清水区は絶好のチャンスが到来しております。2013年には三保松原が世界文化遺産に登録され、世界に誇れる地域資源に気づかされました。また、2016年に日本平の夜景が「日本夜景遺産」に認定されたのを追い風に、2018年度中には日本平山頂に展望回廊を静岡市が整備します。そして、今年7月、国土交通省により清水港日の出ふ頭が「国際旅客船拠点形成港湾」に認定されました。



「清水港客船誘致委員会」による長年にわたる努力の成果もあり、2017年度のクルーズ船寄港数は50隻にまで増えて、今後新たに旅客ターミナルが建設されると、より多くの外国人観光客が清水港に訪れることでしょう。さらには、2019年度には中部横断自動車道が開通し、山梨県や長野県側との縦のラインが強化されることで、物流拠点として清水区のポテンシャルがさらに高まることとなります。

▶以上のことを念頭におき、9月27日に執り行われた本会議にて初質問に臨みました。質問内容は選挙前に公約に掲げた内容をもとに大きく3つのテーマに絞っ

ております。「世界に輝く静岡の実現」「新たな交流と活力を生み出すまち」「災害に強く安心安全に暮らせる町」。今回のレポートはその時の質問内容をお伝えいたします。市民の声をきちんと行政に反映させるべく、引き続き張りきってまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

質問1 【植物園の構想】—世界に輝く静岡の実現—

▶ 私は、静岡市に新たな感動を生む仕組みとして、植物園の設置を提案いたします。具体的な設置場所についてですが、風光明媚な日本平山麓、豊かな自然環境に育まれた有度山周辺地区はいかがでしょうか？中でも私は駒越の果樹研究センター跡地を推薦



します。現在、敷地内6.7ヘクタール

は更地となっており、費用対効果上、十分候補地としてふさわしいと考えます。

▶ 2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控え、またMICE等誘致事業を推進する静岡市にとって、諸外国から多数の賓客が訪れるチャンスは沢山あります。有効と平和のあかしとして、この場所にその国の柑橘などを植樹して、海に見える植物園として整備をすれば、真に「国際海洋文化都市」としてふさわしい都市に近づくことでしょう。

都市局長からの答弁

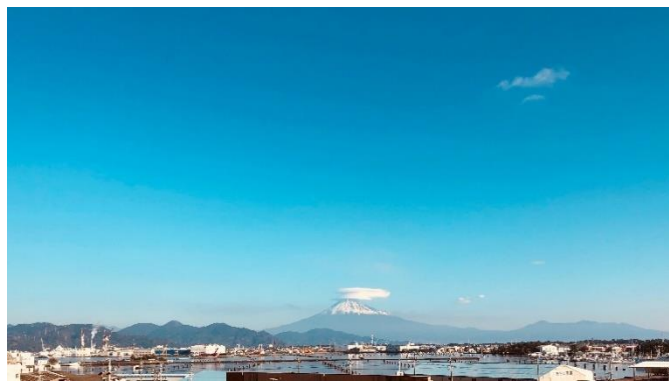
▶ 今後は、本市にふさわしい植物園の在り方をみどりの基本計画の改定に合わせて、調査、研究していきたい。

質問2 【折戸湾再開発】—新たな交流と活力を生み出すまち—

▶ 2017年2月、折戸湾の再開発に向けて民間主導による推進会議が整備プランをまとめました。浜田川から折戸潮騒公園までの海岸線1.5キロ、13.5ヘクタールをウォーターフロントとして一体的に開発する整備プランであり、今後4年後の事業着手を目指すということで、周辺市民の期待は非常に高いわけであります。

▶ しかし、計画実現のためには高いハードルがあります。折戸湾は、港湾法38条に基づく「臨港地区」に指定されており、その中でも「工業港区」の分区に設定されて

いるため、商業、飲食施設といった構造物の建設が制限されます。そのため、港湾管理者である静岡県による分区の見直し等が求められます。



▶折戸湾再開発は、民間主導による市内に例のない大規模なウォーターフロント再開発です。静岡市には都市経営のスペシャリストの立場から責任ある立場を担い、公民連携の先進事例として成果を上げていただくことを切に要望いたします。

企画局長からの答弁

▶民間主導による開発検討の進展を見極めながら、必要に応じて周辺まちづくりの整合性や交通アクセス、観光回遊など、開発の効果を高めるための対応をしていく。

質問3 【道の駅】—新たな交流と活力を生み出すまち—

▶静岡市には、「道の駅」の補完的役割を担うものとしてオクシズを中心に「**静岡市道路休憩施設**」が20か所あります。これは、道路利用者に観光トイレや駐車場といった休憩場所を提供することによって、利用者の快適な道路利用を支援し交通事故や違法駐車を防止することを目的として設置されています。

▶一方で、地方創世の拠点として地域の個性を発揮している「**道の駅**」が全国的に注目を集めて久しいわけであります。1993年よりスタートした道の駅は、2017年4月現在、全国に1,117駅を数えるまでに増えており、静岡県内には24か所設置されています。

▶静岡市においても人口減少が進むなか、地域活性化の起爆剤にしたいという願いから、設置を望む声が駒越や蒲原、庵原などから聞こえております。道の駅は、**産業振興・地域福祉・交通結節点としての交通サービスの提供・防災機能・観光総合窓口・インバウンド観光促進・地方移住促進・地域間交流連携促進**、といった様々な効果を持たせることができます。静岡市においても道路休憩施設から一歩踏み出し、市内に1か所しかない道の駅を今後戦略的に増やしていく必要があるのではないのでしょうか？

建設局長からの答弁

▶本年度、業務委託をしてどのような道の駅が地域活性化に有効なのか、先進事例の調査・必要な機能・設置候補エリア・官民連携の手法について検討していく。

質問4 【地震津波対策】 —災害に強く安心安全に暮らせるまち—

▶静岡市は、現時点で想定しうる最大クラスの津波に対し、5分・500メートルで避難できる地域づくりを目指しています。具体的な事例としては、2016年三保地区に民間企業から用地の無償譲渡を得て、静岡市初となる津波避難用人工高台「**命山**」が完成しました。また、用地取得が難しい不二見地区の村松周辺に対して、**日立空調**の工場敷地内に避難するための連絡橋を今年度中に整備する予定となっております。あるいは、民間施設を活用した津波避難ビルの指定・整備をするための、外付け階段設置費や屋外フェンス設置費等に対する補助を実施しております。

▶災害による被害を最小限にとどめるためには、重要な情報が、確実かつ迅速に届くことが求められます。かつて行政が防災情報を伝える手段は**同報無線**でした。しかし、設置されてから40年以上が経過し、老朽化や住宅環境の変化、または台風やゲリラ豪雨により音声がかき消されてしまうという問題点があります。

▶別の情報伝達手段として、**固定電話**や**テレビ**があります。デメリットは、大規模災害時に固定電話は混線によりつながらなくなり、テレビは停電により使えなくなります。**携帯電話**や**インターネット**は、高齢者等に対して情報格差の問題が生じております。また、過去の大規模災害において、**ラジオ**が大変有効であることが報告されています。そのため、静岡市は2015年に、緊急情報防災ラジオを2万台販売しました。デメリットは、中山間地などは受信困難な区域があるということです。

▶以上、情報伝達手段には一長一短があります。そのことを踏まえて、静岡市は、既存の情報伝達手段を最大限に活用し、そして、**ICT**機器を活用した**IoT**による新たな情報伝達手段を導入することで、市民に対し多重的に災害情報を伝達することによって、重要な情報が同じ人に複数回届くことがあっても、一回も届かないことがないように、必要な情報伝達基盤を整備し、有効利用していくことが求められます。

各種ご連絡先

■自民党議員控室

〒420-8602 静岡市葵区大手町5番1号

TEL:054-254-2111

FAX:054-252-0543

■自宅

〒424-0907 静岡市清水区駒越東町9-27-103

TEL/FAX:054-388-9371

携帯:090-1599-4238

▶E-mail

office@t-hori.com

▶ホームページ

<http://t-hori.com>

▶facebook

<https://www.facebook.com/horitsutom>

▶twitter

<https://twitter.com/horitsutomu>